



Via Latina 22

2026年5月 354号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

韓国地区への教会法上の視察訪問.....	1
ヨーロッパ・マリアニスト協議会（EMC）会議.....	2
世界におけるマリア会教育調査：2026年公式教育事業ダイレクトリー.....	4
運営管理者、福者ギョーム・ジョゼフ・シャミナード神父.....	6
出版物.....	10

韓国地区への教会法上の視察訪問

この地区は3つの共同体を有しています：トダンドンセンター共同体、インチョンシャミナード共同体、そしてモクポ共同体です。21名の修道者（平均年齢60,3才）が4つの主要な福音宣教で活動しています：モクポマリアニスト高校、シャミナード・ハウス高齢者ケア・センター、サンゴク-ドン小教区、そして、地区本部のマリアニスト・センター。

韓国地区への教会法上視察訪問は3名の局長が23日間、そして総長が12日間を要します。総長と教育局長には、5月6－7日に韓国地区で開催されるアジアゾーン会議に出席するため追加の3日間が加わります。

総長評議員会メンバーは各修道者と面談し、それぞれの共同体と共に祈り、食事など日常生活を分かち合いました、また信徒の教員に会い、FMI、MLCと意見交換を行い、そしてサンゴク小教区からの9名の若者グループと会いました。共同体との会議は、霊的会話の方法を用いて、「マリアニスト家族という背景での若者との、また若者のための司牧活動」についての実り多い考察が行われました。



マリアニスト家族の韓国家族評議会のメンバーと総長評議員会のメンバー

総長評議員会のメンバーは、韓国での滞在を通して、この地区が信仰、相互尊重、そして希望で活気があることを知りました。言語の障壁、世俗化が進んだ社会、そして聖職者主義が強い傾向があるカトリック教会の風土などの課題にも関わらず、韓国マリア会はこれらの問題を認識し、全力を挙げてマリアニストカリスマと福音宣教について証しをしようと努めています。



総本部の局長たちとジョセフ・チェ士(デニス・パウティスタ士の左側)
仁川サンゴク小教区の若者たちと共に

私たちは韓国地区の会員たちの福音宣教への献身と、マリアニスト家族の3つの枝の中に生きている家族精神について主に感謝します。

ヨーロッパ・マリアニスト協議会 (EMC) 会議 マドリッド (2026年4月8日-11日)

4月8日から11日にかけて、ヨーロッパの各行政単位の責任者がゾーン会議のためマドリッドに集まりました。その中心テーマはヨーロッパにおける再構築でした。総長、アンドレ・ジョゼフ・フェティスへ師と霊生局長、パブロ・ランボー師が出席者に加わり、EMC

の議長、スペイン管区のアンドレ・ジョゼフ・フェティスによって導かれた考察に助けを提供しました。

討議は、事前に数か月間に渡って実施された、先ず行政単位の評議員会、ついでヨーロッパのマリア会員たち、マリアニスト家族の他の枝のメンバー、そして、私たちと福音宣教を共にに行っている一般信徒との意見聴取のお陰で中身の濃いものでした。私たちは個人的に、或いは共同体としてマリア会員から届けられた応答（96 の応答）と、一般信徒とマリアニスト家族からの応答（33 の応答）に関して大変感謝します。

ヨーロッパにおける私たちの協働と、それを可能にする組織構造を強化することは必須であり、それが求められています。私たちの意見交換のように、この意見聴取はこの確信をさらに強固なものにしてくれました。この確信を実現する道程は言語と伝統の多様性故に容易ではありませんが、それは新たな推進力をもたらします。



EMCのメンバーとアンドレ・ジョゼフ・フェティス神父、パブロ・ランボ神父、アナ・ブラズケス夫人(通訳)と共に

ヨーロッパ行政単位の統合のやり方について、具体的方法が討議されました。例えば、スペインとイタリアの間、そしてフランス、オーストリアとスイスの間。これらの討議は今後数か月かけて深められ、提案が行われることとなります。ゾーン議長によって調整された具体的な計画に関する既に存在する協働もまた継続して強化されなければなりません。このことは、CMSE（ヨーロッパ、マリアニスト学校協議会）によって大変良好に調整されている学校に当てはまりますし、若者の召命司牧について、また、マリアニストカリスマの養成にも当てはまります。

マリアニスト家族にコミットした修道者と信徒の生活と福音宣教を支える組織をヨーロッパのために選べるよう、前進し続けましょう。

私たちはこの会議を主催したスペイン管区、特にマドリードの管区本部共同体に感謝しま

す。セゴビアの美しい町への午後の訪問は全ての出席者にとって楽しいものでした。私たちはまた、ホセ・マリア・アルビラ士に対して、今、5年間の奉仕期間を終え議長の任務を終了するに当たり、その議長としての EMC の調整とリーダーシップに感謝を表明します。

世界におけるマリア会教育調査：2026 年公式教育事業ダイレクトリー

教育は常にマリアニストの福音宣教の中心にありました。1819 年、フランス、ボルドーで最初の学校を開いた時以来、この宣教活動は信仰、学習、そして奉仕において若者を育成する世界ネットワークに発展してきました。

今日、マリアニスト教育は、25 か国の 130 教育事業を通して、ほぼ 120,000 人の生徒と学生数に達しています。これら教育事業は皆、一つの共通目標を分かち合っています：すなわち、強固な価値観と共同体の精神の中で生徒たちを育成することです。非公式教育は伝統的な学校外で編成された学習プログラムを含んでいます。これらのプログラムは、しばしば柔軟性があり、皆に開かれており、そして実用的な技能と個人の成長に基本軸が置かれています。

今年、正規の学校の数が 100 から 104 に増加しました。この増加には、ガーナ、ガル（トーゴ地区）のモラン神父記念中学校が含まれています。また東アフリカ地区のより明確になった構造が反映されており、ここではマリアニスト技術院が現在、モンバサ、マリンデイそしてウクンダにある 3 つの別々の学校として承認されています。加えて、USA 管区は、ル・シェイル・スクール・トラストの一部としてアイルランド、ダブリンのセント・ロレンス校への支援を続けています。

下記がマリアニスト教育についての最近の統計であり、公式と非公式の両教育事業の世界図を紹介します。2026 年の非公式教育事業は今統計が纏められつつあり、間もなくウェブサイトで見られます。

公式教育事業

行政単位	学校数	生徒数	教員数	SM 教員	管理職	修道者数
ラテンアメリカ	17	21404	1979	15	376	31
東アフリカ	11	9095	240	17	52	48
スペイン	20	24267	1711	14	136	50
フランス	10	11842	832	9	422	18
コートジボアール	2	3110	97	3	29	11
インド	7	3720	179	34	39	38
イタリア	1	1150	90	0	3	3
日本	4	5720	462	1	67	6
韓国	1	472	45	1	5	2
メリバ	3	4573	327	15	34	23
オーストリア	3	2488	256	1	38	3
トーゴ	4	1988	147	25	25	25
USA (大学以外)	18	11383	968	7	537	26
USA (大学)	3	17028	1142	6	636	41
USA (全体)	21	28411	2110	15	1173	67
合 計	104	118222	8475	148	2399	325

非公式教育事業

行政単位	事業数	生徒数	男性	女性	教員数	SM 数
イタリア	1	115	28	87	9	3
インド	7	2893	1578	1315	47	20
スペイン	2	241	98	143	33	0
USA	2	1500	-	-	56	6
ラテンアメリカ	12	733	312	421	55	15
オーストリア	1	45	30	15	10	0
合 計	25	5527	2046	1981	210	44

≪[2026年公式教育活動の一覧表](#)調査として次の質問に答えてください。

1. 幾つの学校が私たちの創立者の名を付けていますか？
2. 幾つの学校が≪聖マリア≫の名を付けていますか？
3. 今日、まだ活動している最も古いマリアニスト学校はどれですか？創立の年は？
4. 大学ではない、どの学校が最も多い生徒を有していますか？

5. 幾つの学校が男女共学ですか？幾つが男子校ですか？

詳しく見て、さらに多くの情報を発見してください。こちらからダウンロードできます：

[\(2026年 教育事業ディレクトリ\)](#)

運営管理者、福者ギョーム・ジョゼフ・シャミナード神父

個人であれ法人であれ、一つの主題が有利になるように、またその目標の実現のために継続的に進展する活動が、運営管理という言葉で意味されています。社会的グループの運営管理の目的はその活力と永続性を保証することです。このことはそのグループの単なる生き残りか停滞した生命維持という意味においてだけでなく、ダイナミックな方法でそのグループ全体の発展や活力を促進する意味において理解されなければなりません。私たちの『生活の規則』はこの観点をうまく捉えて、一人一人の修道者、および共同体の継続的な成長、新しい時代への適応にほのめかしています（『生活の規則』39条参照）。

シャミナード神父について言えば、彼が運営管理者の役割を果たすことを要請されていた状況におけるその適性と素質に私たちは注目します。

ミュシダンにおける財産管理者

財産管理者とは、ある施設の運営管理を専門的、および財務的の両面で、滞りなく行う人です。1776年のラテン語の勉強が終了した時点で、聖シャルル会への入会が許可されたギョーム・ジョゼフはi、その時から、兄ジャン・バプティストが行っていた不動産管理者の役割と関与していたように思われますii。1776年から1778年にかけてミュシダンでの哲学と物理を受講した後、管理者としての立場が理由となって、シャミナードはボルドーでごく短期の滞在をすることができました。ギョーム・ジョゼフにとって、他の分野においてと同様、この分野においてもその潜在能力を最大限に生かす準備ができるようになるのは、副助祭叙階の後でした。

バザ教区の運営管理

シャミナード神父は1800年に、バザ教区の運営管理者という肩書をもってスペインから帰国しました。バザ市の前任司教、サン・ソヴールは、謙虚さ、善良さ、英知の評判を残して、1792年に亡くなっていましたiii。彼の司教総代理、ド・キュルテユール神父が暫定的にこの教区統治していましたが、間もなく彼は高齢の重みに抗しきれず、また苦痛が続いていました。まさにこの時、オーシュの大司教という立場で、バザ首都大主教であったド・トゥール・デュ・パン司教は、シャミナード神父にこの教区の責任を委ねようと考えました。シャミナード神父は聴罪司祭としての役割をここで果たしていたので、すでに多くの司祭たちを知っており、またこの機会にすばらしい管理運営の資質を示していたのです。この教区の

管理運営は重責でした。なぜならバザ教区は広大だったからです。この教区は現在のジロンド県全体を含んでおり、また、ドルドーニュ県のサンフォア・ラ・グランからロト・エ・ガロンヌのカステルヤードまで広がっており、リオール郡も含まれていました。1792年以降、1797年のほんの短期間を除き、ド・キュルテユール神父がその権限を行使することができた時、この教区は放置されてきました：ごく少数の忠実な司祭しか残っておらず、また革命の間に教区の公文書や書類がすべて破棄されて無くなっていたために、この教区の立て直しはさらに困難なものとなっていました。ボルドーでの役務を犠牲にすることなしにこの教区の任務を実践するために、シャミナード神父は秘書として、恐怖政治の日々の間、自分と一緒に働いていた司祭、フランソワ・ピノー神父に協力を求めました^{iv}。さらに、彼はバザに住むことができなかつたので、かつてラウツェルテの首席司祭であった、カオール教区のピエール・ファバス神父をこの市の副運営管理者に任命しました^v；シャミナード神父はこの教区の他の地域のために他の二人の司祭、プルジェ、ルガット両司祭に同様のタイトルを与えました。

このような措置は、シャミナード神父が自分でこの教区の現状を把握し、教区民に直接に対応するためにしばしば教区全体を訪問する機会をなくすものではありませんでした。



エクアドルの彫刻家で元マリアニスト学生のマリオ・タピアによって制作されたマリアニスト家族を描いた彫刻群。2001年に除幕されたこの彫刻は、ヴィア・ラティーナ 22 の総本部入口を飾っています。

ビジネスにおける平静さ

ビジネスに、シャミナード神父は良好な関係、平静さ、そして自制心を持ち込みました。

彼が神の栄光を拡大したいとの望みに燃えていたことは疑いありませんし、例えば、オーシュの司祭には次のように書いています：“働きましょう！ あなたがご存じのように、私の願望はフランス中に神の愛の火を灯すことです”：そしてその同じ日に、オーシュのソダリテイの責任者には次のように書いています：“神の大いなる慈しみによって、長い間、私は聖なるマリア崇敬を広めることだけを生きがいにしてきました。” とはいえ、彼は見事な冷静さを保ち、霊的子供たちに与える教えを手紙に述べています：“神の霊は非常に活発ですが、急ぎません”、“気をつけましょう、思い悩まないように気をつけましょう：常に仕事からあえて距離を置きましょう。私たちの炎が私たちのところに集中するようにしましょう。この心はすべてにおいて神を喜ばせることだけを求めなければなりません。” マザー・アデルはこの点に関して、他の多くの点と同様に彼を称賛し、その姉妹たちに彼を模範として示しました：“シャミナード神父はそれをどのように行っているかをご覧ください、彼は常に自制心を持っています；けれども、彼は多くの仕事をなしています、恵みが多くのことをなしているからです。”

事実、これは彼の秘訣です：もし彼がいつも忙しいわけではないとすれば、それはのびのびと活動するために聖霊を頼りにしているからです：クルーゼ士に次のように書いています、“あなたの魂に完全な平和を獲得し、そこに留まるために、あなた自身の行動、態度、努力だけに集中しなさい。忙しければ忙しいほど、もっと頻繁にあなたは祈りと潜心に戻る必要があります。少なくとも朝晩の念祷の時間にこれを行いなさい。この実践がすべて十分な効果を発揮するために、その日の各々の主要な行為に当たって、2、3分間、他のすべての考え、感情などを一時中断して、深い潜心に入りなさい。あなたの自然的な行動を抑え、最善のことを望みなさい。” クルーゼ士に対して、また次のように言っています：“結局、神の愛があなたの魂全体を支配することになります。” 神の愛によって命じられた最も偉大な任務と最も数多い職業は、魂は妨げません。愛そのものはますます燃え上がるばかりです。他の手紙のどこかに次のようにあります：“わが子よ、あなたが責任を任されている数多くのことで心配してはいけません。あなたには私たちの聖なる母マリアの助けが欠けることはありません。”

三部門 - 統治機構

総長という人に目立って結びついているこの三部門は、霊生、教育、財務の三名の総長補佐に分割されましたが、それは、推進力と方向性の一致を保ちながら、あらゆる奉仕の適切な機能を確実なものとするためでした。私たちはシュボー神父に宛てた手紙の中で説明されている創立者の考え、また、地方の統治は中央の統治に習わなければならなかったもので、サン・レミ共同体という個別の統治に適応された創立者の考えを知ることができます：“あなたが言っているように、丁度、現状では万事は一致の下に行われる必要があるように、施設の統治は理想どおりにいくこと、また、部長たちはその権限内で自分が中心であるとしても、上長は実際に全体の動きの中心であることがよく分ったでしょう。宇宙における神の御業についても同様のことが言えないでしょうか。惑星はそれぞれ自分の月を持っているのではないですか。神はこの偉大な宇宙の秩序を見事に維持する一般的な法則を定められました。私

は、もし修道生活、延いてはキリスト教的生活の一般的規則が良く守れば、良く理解されたこの種の統治は私たちを大きな秩序へと導くことを疑いません。私は、この三部門による統治は違った形で組織されることはできない、と言うつもりではありません。しかし、この統治は私たちの旧会則が本会に採用したものであり、そして、よく理解されれば、この統治は変更なしには、つまりあらゆる必要な修正なしには苦しい状況が続く可能性があるのです、この統治の仕方がよりよいのです^{vi}。”

運営管理における英知

シャミナード神父は、自分になされた要請が何であれ、その動機は却下されるべきであると結論を出した後に、自分の決定を再考することはありませんでした。一例として、「ルーアンの良き牧者会」の創立者、アンジョラン女史が、その会則の草案作成段階においてシャミナード神父に支援を要請しました。彼は次のように言いました：“あなたにお答えするのに当惑を覚えます^{vii}。一方では、あなたの嘆願は大変謙虚であり急を要していますが、他方では、神から呼ばれていない仕事に私が従事することを神は望まれないし、また、関係すれば必ず軽率さや無謀さを犯すことになる仕事に首を突っ込むことはできない、とはっきり理解していると私は思います。また、依頼を断る理由の中で、彼は、一方では、この仕事との関係で否定的な気にさせたみ摂理の計らいについて、他方で、膨大な時間を要する彼自身の仕事の莫大さについて述べています。

もし彼が、人間的賢明さがそうしないよう彼に助言し、しかし彼自身は天からの要請によってそれに惹かれていると感じる、そのようなある企てに自分が直面していると分かったとするなら、彼は他のどんな状況においてよりもさらに慎重でした。彼は神の意思がより明確に表れるまで、あたかもそれ自身で解決するかのように、その葛藤の解決をそれ自身に委ねました；つまり、彼は人間的な英知を信仰の下に置き、自分自身を完全に神の摂理の導きに委ねたのです。その間、彼のためらいは、ある人々が一筋縄ではいかず洗練されたアプローチや配慮を求める「yes」や「no」に表現されましたが、それらは、対立する動機によって彼にもたらされた様々な影響の表現に過ぎなかったのです。この種のケースについて、彼は次のように言っています^{viii}：“あなたが気づいているように、私はもうこれ以上後に引けないと認めた時にしか、決して態度を決めません。”

ギョーム・ジョゼフ・シャミナードは、その生涯の最後の10年間の自分の補佐役たちとの対立にもかかわらず、その事業の運営管理において、信仰に照らされた英知を示しました。

【注】

(i) G. カイエ、1850年2月13日の回章参照：“15歳でムシダンで教師を受け入れ...”

(ii) G.-J. シャミナード：“私は16年から17年間、理事として働いていました...”

(1836年4月26日、J.-B. ララン神父宛て) “若い頃、私はエーバースムンスターよりも大きな修道院でシンディクの役割を果たしていました...” (フランソワ・ジョゼフ・エンダーラン宛、1839年1月7日)。

(iii) アメデ・ド・グレゴワール・ド・サン・ソーヴール司教(1708-1792)は、マンド教区出身で、ル

イ 15 世のチャブレン、1746 年からバザス司教を務め、総議会の代議士を務めたが、彼の努力にもかかわらず自分の司教区の廃止を阻止できなかった。シセ司教は 1790 年 10 月 31 日付の書簡でボルドーの大司教宮殿で彼をもてなした。彼はこれを拒否し、家族の中で死ぬことを選んだ(1792 年 1 月 16 日)。彼はバザスのホスピスの小さな墓地で貧しい人々の中に埋葬されることを願った。彼の質素な墓は今もそこに残っている。(オ・ライリー『バサスの歴史』1840 年参照)。

(iv) フランソワ・ピノーは 1790 年に叙階された若き司祭であり、“すべての教会的美徳を備えているが、彼には説教壇にふさわしいより良い声が欠けているだけです”と 1802 年の公式記録に記されている。協約後、彼はボルドーのサン・ミシェル教会の司祭に任命された。1816 年にサン・ニコラ・ド・グラヴの教区司祭となり、1845 年 10 月 15 日に名義参事会員として亡くなった。

(v) ピエール・ファバスは 1761 年生まれ；協約後もボルドー教区に留まり、オーロスの小教区司祭に任命された。彼は 1818 年 3 月 9 日に亡くなった。

(vi) 1831 年 11 月 23 日。書簡第 III 巻、# 609。

(vii) 1839 年 6 月 11 日。書簡第 V 巻、# 1143。

(viii) ララン神父宛、1831 年 4 月 30 日付の書簡第 III 巻、# 588。

出版 物

ファウスティーノ

尊者ファウスティーノについての列聖調査に関する報告書、[ファウティーノ](#)と共に、は 3 か国語で入手出来ます。これは次のリンクです。 [2026 年 4 月](#) [2026 年 5 月](#)

それらを読み、共有してください。



福者シャミナード神父への祈りの意向

私たちは、非常に進行した筋萎縮性側索硬化症 (ALS) を患い、話す能力を失い、経管栄養補強で栄養を摂らなければならないフアン・エドゥアルド・アルナイス氏 (Juan Eduardo Arnáiz) の治癒のために、福者シャミナード神父に九日間の祈りをお願いします。フアン・エドゥアルド・アルナイス氏はサラゴサ市の信徒共同体に属しています。この意向は、サラゴサのフラタニティの顧問であるホセ・マリア・フェリセス神父(SM)からの要請によるものでした。

最近の総本部通信

- 訃報：4号
- 4月28日：回章第5号 愛し奉仕することを知ること、総長アンドレ・ジョゼフ・フェティス師より、3ヶ国語で全マリアニスト修道者へ送付

総本部日程

- 5月5-7日：総長、アンドレ・ジョゼフ・フェティス師と教育局長、デニス・バウティスタ士が韓国ソウルでのアジアゾーン会議に出席
- 5月16日-6月4日：霊生局長、パブロ・ランボー師と教育局長、デニス・バウティスタ士が東アフリカ地区でのナザレ養成プログラムに出席
- 5月27日-29日：総長、アンドレ・ジョゼフ・フェティス師がローマで総長連合の会合に出席